

大学番号：私立234

注3

[令和2年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

認可

大阪歯科大学大学院 医療保健学研究科 口腔科学専攻博士課程(後期)

注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人大阪歯科大学

令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 大学企画部設置事務室

職名・氏名 ツジ 知 幸

電話番号 072-864-5024

(夜間) 072-864-5024

F A X 072-864-3000

e-mail tsuji-t@cc.osaka-dent.ac.jp

(注)1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目 次

## 医療保健学研究科

### <口腔科学専攻博士課程(後期)>

	ページ
1 調査対象大学等の概要等	1
(1) 設置者	1
(2) 大学名	1
(3) 調査対象大学等の位置	1
(4) 管理運営組織	1
(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等	2
(5)－① 調査対象学部等の名称等	2
(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況	2
(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況	3
(5)－④ 調査対象学部等の退学者等の状況	4
(5)－⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合	4
2 授業科目の概要	5
(1)－① 授業科目表	5
(1)－② 授業科目表に関する変更内容	6
(2) 授業科目数	6
(3) 未開講科目	7
(4) 廃止科目	7
(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」	7
(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合	7
3 施設・設備の整備状況, 経費	8
4 既設大学等の状況	9
5 教員組織の状況	10
(1)－① 担当教員表	10
(1)－② 担当教員表に関する変更内容	12
(2) 専任教員数等	13
(2)－① 設置基準上の必要専任教員数	13
(2)－② 専任教員数等【大学院】	13
(2)－③ 年齢構成	13
(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率	13
(2)－⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率	13
(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率	13
(3) 専任教員辞任等の理由	14
(3)－① 専任教員の就任辞任(未就任)の理由及び後任補充状況	14
(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況	14

(3)－③ 上記(3)－①・(3)－②の合計	14
(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率	14
(3)－⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況	15
(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」	15
6 附帯事項等に対する履行状況等	16
7 その他全般的事項	17
(1) 設置計画変更事項等	17
(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)	17
(3) 教育課程連携協議会に関する事項	18
(4) 自己点検・評価等に関する事項	18
(5) 情報公表に関する事項	19
別紙1 (大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程)	20
別紙2 (大阪歯科大学大学院ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程)	21
別紙3 (2019年度FD委員会次第)	22
別紙4 (2019年度FDセミナー実施報告)	24
別紙5 (大阪歯科大学SD実施方針)	39
別紙6 (2019年度SDセミナー実施報告)	40

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人大阪歯科大学

## (2) 大学名

大阪歯科大学大学院

## (3) 調査対象大学等の位置

〒573-1144

大阪府枚方市牧野本町1-4-4

(〒540-0008)

(大阪府大阪市中央区大手前1-5-17)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カワゾエ タカヨシ) 川添堯彬 (平成19年10月)		
学長	(カワゾエ タカヨシ) 川添堯彬 (平成19年10月)		
医療保健学 研究科長	(コマサ ユタカ) 小正裕 (平成30年4月)	(イマイ コウイチ) 今井弘一 (令和元年6月)	学内人事異動(2)
学科長等	—		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 →(元)

令和2年度に報告する内容 →(2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5)－① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程(後期)博士(口腔科学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション学関係を除く。)	3年	3人	—年次人	9人	基礎となる学部等 医療保健学部 口腔保健学科 口腔工学科 大学院医療保健学研究科 口腔科学専攻(修士課程)

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	3 (—) [—]		( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	3.00倍	—	
志願者数	9 (—) [1]	— (—) [—]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
受験者数	9 (—) [1]	— (—) [—]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
合格者数	9 (—) [1]	— (—) [—]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
B 入学者数	9 (—) [1]	— (—) [—]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	3.00								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	9 [1] (-)	- [-] (-)	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		
計	9 [1] (-)		[ ] ( )		[ ] ( )		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5)－④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	9人	0人	令和2年度	0人	0人	
令和3年度	－人	－人	令和2年度	－人	－人	
			令和3年度	－人	－人	
令和4年度	－人	－人	令和2年度	－人	－人	
			令和3年度	－人	－人	
			令和4年度	－人	－人	
合計		0人		－人	－人	

- (注) ・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5)－⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の退学者数(a)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\phantom{0}} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の退学者数(a)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\phantom{0}} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程(後期)>

### (1) - ① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	医療保健開発論	1前	1			2			1		1
	医療保健労働衛生論	1前	1			1	1				2
	医療保健人材管理学	1前	1			1					2
	医療保健組織運営論	1前	1				1				4
	口腔科学研究特論	1前	1			5	1				1
	口腔科学研究指導論	1前	1			4	2				2
	小計(6科目)	-	6			6	4		1		12
専門科目	口腔科学研究指導実習	1後～3後	1			7	5	2	4		
	小計(1科目)	-	1			7	5	2	4		
専門研究科目	口腔科学高度専門研究	1後～3後	8			7	5	2	4		
	小計(1科目)	-	8			7	5	2	4		
合計(8科目)		-	15			7	5	2	4		12
卒業要件及び履修方法											
3年以上在学し、共通科目(必修)6単位、専門科目(必修)1単位、専門研究科目(必修)8単位、計15単位以上修得し、博士論文の審査及び試験に合格すること。											

#### 【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	医療保健開発論	1前	1			2			1		1
	医療保健労働衛生論	1前	1			1	1				2
	医療保健人材管理学	1前	1				1				2
	医療保健組織運営論	1前	1				1				4
	口腔科学研究特論	1前	1			5	1				1
	口腔科学研究指導論	1前	1			4	2				2
	小計(6科目)	-	6			6	4		1		12
専門科目	口腔科学研究指導実習	1後～3後	1			7	5	2	4		
	小計(1科目)	-	1			7	5	2	4		
専門研究科目	口腔科学高度専門研究	1後～3後	8			7	5	2	4		
	小計(1科目)	-	8			7	5	2	4		
合計(8科目)		-	15			7	5	2	4		12
卒業要件及び履修方法											
3年以上在学し、共通科目(必修)6単位、専門科目(必修)1単位、専門研究科目(必修)8単位、計15単位以上修得し、博士論文の審査及び試験に合格すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1)－②授業科目表に関する変更内容

**【令和2年度】**

該当なし。

- (注)
- ・ 2(1)－① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更, 専任教員等の配置の変更, 授業科目名の変更, 新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ 変更内容には, 授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	0 科目	0 科目	8 科目	8 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	8 科目 [0]	

- (注)
- ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに, [ ] 内に, 設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
該当なし。						

- (注)
- ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は，「一般・専門」を「基礎，展開，職業専門，総合」と修正して記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
該当なし。						

- (注)
- ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
  - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は，「一般・専門」を「基礎，展開，職業専門，総合」と修正して記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。
-------

- (注)
- ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見，学生への周知方法，今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

### (6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

- (注)
- ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで表示されます。
  - ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が，「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	81,990.50 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	81,990.50 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	45,859.33 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	45,859.33 m <sup>2</sup>				
	小 計	127,849.83 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	127,849.83 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	4,296.08 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	4,296.08 m <sup>2</sup>				
	合 計	132,145.91 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	132,145.91 m <sup>2</sup>				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	56,738.73 m <sup>2</sup> (56,738.73m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> (0.00m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> (0.00m <sup>2</sup> )	56,738.73 m <sup>2</sup> (56,738.73m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	AC対象研究科 (医療保健学部及び本 研究科(修士課程)と 共用)			
	8 室	1 室	8 室	1 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			AC対象研究科 (医療保健学部及び本 研究科(修士課程)と 共用)			
	医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程(後期)		20 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 (AC対象研究 科と分けることがで きない。)  教育の充実のため、 図書等を増やした。 (2)	
	医療保健学研究科 口腔科学専攻 博士課程(後期)	185,000 [64,000] <del>183,085 [63,004]</del> (180,633 [62,757]) <del>(180,000 [62,000])</del>	2,500 [1,400] <del>2,234 [1,247]</del> (2,210 [1,221]) <del>(2,200 [1,200])</del>	5,500 [4,500] <del>4,922 [3,165]</del> (5,243 [3,793]) <del>4,922 [3,165]</del>	2,000 <del>1,870</del> (1,916) <del>1,870</del>	0 (0)	0 (0)		
	計	185,000 [64,000] <del>183,085 [63,004]</del> (180,633 [62,757]) <del>(180,000 [62,000])</del>	2,500 [1,400] <del>2,234 [1,247]</del> (2,210 [1,221]) <del>(2,200 [1,200])</del>	5,500 [4,500] <del>4,922 [3,165]</del> (5,243 [3,793]) <del>4,922 [3,165]</del>	2,000 <del>1,870</del> (1,916) <del>1,870</del>	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	3,745.47 m <sup>2</sup>	閱 覧 座 席 数	369 <del>372</del>	収 納 可 能 冊 数	321,000	大学全体 (AC対象研究 科と分けることがで きない。) <b>レイアウト変更のため 座席数減(2)</b>		
	面 積	3,076.44 m <sup>2</sup>	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		テニスコート4面、弓道場、相撲場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究費等は、研究科 単位での算出不能の ため、図基部との合 計。 共同研究費等は大学 全体。	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	450 千円	450 千円	図書購入費	300 千円	300 千円		300 千円
		共同研究費等	32,700 千円	32,700 千円	設備購入費	500 千円	300 千円		300 千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		700 千円	600 千円	600 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		私立学校経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	大阪歯科大学										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
歯学研究科	4	30	—	120	博士(歯学)	1.17	1.33	—	昭和36	大阪府枚方市楠 葉花園町8-1	
歯科基礎系専攻	4	12	—	48	博士(歯学)	0.45	1.08	—	昭和36	同上	
歯科臨床系専攻	4	18	—	72	博士(歯学)	1.64	1.50	—	昭和36	同上	
医療保健学研究科	2又は3	13	—	23	博士(口腔科学) 修士(口腔科学)	1.38	1.46	—	平成30	大阪府枚方市牧 野本町1-4-1	
口腔科学専攻 博士課程(後期)	3	3	—	3	博士(口腔科学)	3.00	3.00	—	令和2	同上	
口腔科学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士(口腔科学)	1.15	1.00	—	平成30	同上	
歯学部	6	160	—	960	学士(歯学)	0.80	0.80	—	昭和27	大阪府枚方市楠 葉花園町8-1	
歯学科	6	160	—	960	学士(歯学)	0.80	0.80	—	昭和27	同上	
医療保健学部	4	100	—	400	学士(口腔保健学) 学士(口腔工学)	0.86	1.01	—	平成29	大阪府枚方市牧 野本町1-4-1	
口腔保健学科	4	70	—	280	学士(口腔保健学)	0.98	1.05	—	平成29	同上	
口腔工学科	4	30	—	120	学士(口腔工学)	0.58	0.90	—	平成29	同上	
大学全体	—	303	—	1,503	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。  
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程(後期)>

(1)-① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	
担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名	
専	教授	糸田 昌隆 (57) <令和2年4月> 博士(歯学)	糸田 昌隆 (57) <令和2年4月> 博士(歯学)				
		口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	教授	橋本 和俊 (63) <令和2年4月> 歯学博士	橋本 和俊 (63) <令和2年4月> 歯学博士				
		医療保健開発論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	医療保健開発論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	教授	橋本 哲次 (64) <令和2年4月> 歯学博士	橋本 哲次 (64) <令和2年4月> 歯学博士				
		医療保健労働衛生論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	医療保健労働衛生論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	教授	西崎 宏 (66) <令和2年4月> 歯学博士	西崎 宏 (66) <令和2年4月> 歯学博士				
		口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	教授	橋本 正則 (54) <令和2年4月> 博士(歯学)	橋本 正則 (54) <令和2年4月> 博士(歯学)				
		医療保健開発論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	医療保健開発論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	教授	元根 正晴 (64) <令和2年4月> 博士(医学)	元根 正晴 (64) <令和2年4月> 博士(医学)				
		口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	教授	和 唐 雅 博 (66) <令和2年4月> 歯学博士	和 唐 雅 博 (66) <令和2年4月> 歯学博士				
		口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	准教授	神 光 一 郎 (57) <令和2年4月> 博士(歯学)	神 光 一 郎 (57) <令和2年4月> 博士(歯学)				
		医療保健組織運営論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	医療保健組織運営論※ 口腔科学研究特論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	准教授	神 光 一 郎 (57) <令和2年4月> 博士(歯学)	神 光 一 郎 (57) <令和2年4月> 博士(歯学)				
		口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	准教授	中 塚 美 智 子 (53) <令和2年4月> 博士(歯学)	中 塚 美 智 子 (53) <令和2年4月> 博士(歯学)				
		医療保健労働衛生論※ 医療保健人材管理学※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	医療保健労働衛生論※ 医療保健人材管理学※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	准教授	濱島(宮川) 淑 恵 (50) <令和2年4月> 博士(学術)	濱島(宮川) 淑 恵 (50) <令和2年4月> 博士(学術)				
		口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	准教授	山 中 武 志 (60) <令和2年4月> 博士(歯学)	山 中 武 志 (60) <令和2年4月> 博士(歯学)				
		口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究指導論※ 口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				
専	講師	梶 貴 三 子 (60) <令和2年4月> 修士(教育学)	梶 貴 三 子 (60) <令和2年4月> 修士(教育学)				
		口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究	口腔科学研究指導実習 口腔科学高度専門研究				



(1)ー②担当教員表に関する変更内容

**【令和2年度】**

該当なし。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
8	6	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2)一② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
7	5	2	4	18	0	7	5	2	4	18	0
(7)	(5)	(2)	(4)	(18)	0						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
17	1	0				17	1	0			
(17)	(1)	0	/			/					
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
17	5	2	4	18	0	17	5	2	4	18	0
[0]	[0]	[2]	[4]	[18]	[0]	[0]	[0]	[2]	[4]	[18]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
17	1	0				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2)一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢(歳)	報告時(上記(B)) の教員のうち、定 年を延長して採用 している教員数	完成年度時(上記 (C))の教員のうち、 定年を延長して採 用する教員数
教授67 准教授以下65 歳	0	2
名	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{18} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)一⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)一⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3)－① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由			
該当なし										
合計(D)					後任補充状況の集計(E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3)－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
該当なし										
合計(F)					後任補充状況の集計(G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計(D)+(F)					後任補充状況の集計(E)+(G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)－③合計(D)+(F)}{(2)－②設置時の計画(A)} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## (3)－⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
該当なし										
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a)+(b)+(c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)
- ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

## (4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注)
- ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年)	該当なし	該当なし	該当なし

- (注)
- ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程(後期)>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
授業の開始時期	令和2年度前期の授業開始を4月9日(木)から予定していたが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、6月2日(火)からに延期した。なお、これに関して、遠隔授業は行わない。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<FD>

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- 本学では「大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会」を設置し、本研究科の基礎学部である医療保健学部から5名(全員が本研究科修士課程のマル合教員。)の委員を出している。委員会規程は、別紙1のとおり(p.20)。
- 令和元年度からは「大阪歯科大学大学院ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会」(以下「大学院FD委員会」という。)を設置した。委員会規程は、別紙2のとおり(p.21)。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) ※平成31年4月～令和2年3月

c 委員会の審議事項等 ※平成31年4月～令和2年3月

- 別紙3のとおり(p.22)。なお、大学院FD委員会の開催を令和2年3月に予定していたが、新型コロナウイルスの関係で中止した。

② 実施状況

a 実施内容

- 学内でのFDセミナーの企画・立案・実施をする。
- FDに関する報告書作成を行う。
- その他FD活動推進のための諸活動を行う。

b 実施方法

- FDセミナーの実施(本学教員は、FDセミナーへの参加が義務付けられている。)

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- 別紙4のとおり(p.24)。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- 本研究科は学部と異なり、養成課程ではないが(国家試験の関係はない。)、今年度入学生全員が社会人(修士課程も同様)であり、学生はしばらく「学校」というものから離れている。このため、大学院生に対する授業の進め方には工夫が必要と考えられ、FDセミナーで得る知見は有益なものである。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- 本研究科の基礎学部である医療保健学部はポータルシステムで実施している。
- 現在、本研究科では授業評価アンケートを実施していないため、今後、実施方法、内容等を検討する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- 上記のとおり、現在、本研究科では授業アンケートを実施しておらず、実施方法、内容等を検討するものがあるが、そのときには、教員、学生への公開、方法等についても検討する。

<SD>

① 実施体制

- a 委員会の設置状況
- b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) ※平成31年4月～令和2年3月
- c 委員会の審議事項等 ※※平成31年4月～令和2年3月
  - ・ 本学では「大阪歯科大学SD実施方針」(平成28年7月28日 理事会決定)を策定し、これに基づいてSDを実施している。同方針は、別紙5のとおり(p. 39)。
  - ・ SDについては、委員会として設置していないが、事務管理職会議で計画を立案し、大学企画部が実施する。

② 実施状況

- a 実施内容
  - ・ 事務管理職会議において、SDセミナーを企画・立案する。
- b 実施方法
  - ・ SDセミナーの実施
- c 開催状況(教員の参加状況含む)
  - ・ 別紙6のとおり(p. 40)。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・ 令和2年度(開設年度)は入学定員3名に対し、9名の入学であった。全員が社会人であり、歯科衛生士(7名)、歯科技工士(1名)及び看護師(1名)の免許所持者が入学した。このうち、本研究科の修士課程修了者が5名、大学・短期大学で教鞭を取っている者が4名である。
- ・ 「口腔科学」という分野において、本学が私立大学で初めての博士課程(後期)の開設である。今後、口腔科学の分野においても大学教育が進むと思われ、博士課程(後期)において教員養成が必要であると確認した。
- ・ 現在、本研究科(修士課程2年)に在学中の5名も歯科衛生士・歯科技工士の専門学校で教鞭を取っており、終了後は博士課程(後期)への進学を希望している。

② 自己点検・評価報告書

- a 公表(予定)時期
  - ・ 令和2年10月頃に公表予定である(ただし、本研究科博士課程(後期)は該当しない。)
- b 公表方法
  - ・ 大学ホームページ上に公開予定(令和2年10月頃を予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和3年に公益財団法人大学基準協会の評価を受ける(ただし、本研究科博士課程(後期)は該当しない。)。前回は、平成26年度に同協会の認証評価を受けた。結は「同協会の大学基準に適合」、認定期間は令和4年3月31日までである。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和2年度)	
a 公表予定の有無	[ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ]
≪ aで「有」の場合≫	
b 公表(予定)時期	[ <input type="checkbox"/> 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 公表後2～3ヶ月以内 ・ <input type="checkbox"/> 公表後3ヶ月以降 ]
c 公表方法	[ <input checked="" type="checkbox"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他( ) ]
≪ aで公表「無」の場合≫	
d 公表しない理由	[ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、  
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

## 大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

### （目的）

第1条 大阪歯科大学の建学の理念に基づき、教育活動の質的向上と発展を期して、ファカルティ・ディベロップメント活動の運営及び今後のあるべき方向を検討するため、大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### （審議事項等）

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議し、FDを推進するための活動を行う。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関すること。
- (2) FDの推進のための諸活動に関すること。
- (3) FDに関する報告作成に関すること。
- (4) ティーチング・ポートフォリオを活用した教育支援に関すること。
- (5) その他FDに関すること。

### （委員会の構成）

第3条 委員会は、委員長及び委員をもって構成する。

- 2 委員長は、教務部長があたる。
- 3 委員は、主任教授会の議を経て、学長が理事長に上申し、理事長が任命する。

### （委員会の決議及び議決）

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- (1) 委員長に事故あるときは、委員長が指名した者が、その職務を代行する。
- (2) 委員会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (3) 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

### （任期）

第5条 委員長及び委員の任期は、2年とする。ただし、補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任は妨げない。

### （事務）

第6条 委員会の事務は、教務学生課が行う。

## 附 則

この規程は、令和元年9月27日から施行する。

## 別紙 2

### 大阪歯科大学大学院ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

（目的）

第1条 この規程は、大学院設置基準第14条の3及び大阪歯科大学大学院学則第5条第3項に基づき大阪歯科大学大学院（以下「大学院」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を推進するためFD委員会を置き（以下「委員会」という。）、その運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項等）

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、FDを推進するための活動を行う。

- (1) 大学院における教育研究活動の改善及び充実の方策に関する事項
- (2) その他大学院におけるFDに関連する事項

（委員会の構成）

第3条 委員会は、次に掲げる委員長、委員をもって構成する。

- (1) 委員長は大学院研究科科長の中から学長が指名する。
- (2) 委員は大学院歯学研究科会議及び医療保健学研究科会議の議を経て、学長が理事長に上申し、理事長が任命する。

（委員会の招集および運営）

第4条 委員会の招集および運営については次のとおりとする。

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。
- (3) 委員会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (4) 委員会は、特に必要と認めるときは、学外の有識者、大学院生に出席を求めて意見を聴くことができる。

（任期）

第5条 委員長および委員の任期は、2年とする。ただし、補充された委員の任期は前任者の残任期間とする

2 前項に定める委員については、再任は妨げない。

（事務）

第6条 委員会の事務は、大学院課が行う。

附 則

この規程は、2019年3月28日から施行する。

## 2019年度FD委員会次第

## &lt;第1回&gt;

日 時	2019年4月10日(水) 13:00~13:45
場 所	楠葉学舎5号館3階大会議室
報告事項	1 2019年度委員と2018年度FD委員会からの報告事項 2 その他
議 事	1 2019年度に実施するFDの計画 2 その他

## &lt;第2回&gt;

日 時	2019年5月8日(水)
場 所	(メール会議)
報告事項	1 第1回FDセミナー実施概要(4.22(月))実施報告 2 その他
議 事	1 第3回FDセミナー(5.22(金))実施概要 2 第4回FDセミナー(5.25(土))実施概要 3 その他

## &lt;第3回&gt;

日 時	2019年6月12日(水)
場 所	(メール会議)
報告事項	1 第1回~第5回FDセミナー実施報告 2 第1回~第5回FDセミナーアンケート集計結果 3 第7回~第10回FDセミナーの実施概要 4 その他
議 事	特になし。

## &lt;第4回&gt;

日 時	2019年9月11日(水)
場 所	(メール会議)
報告事項	1 第6回~第9回FDセミナー実施報告 2 第6回~第9回FDセミナーアンケート集計結果 3 第11回FDセミナーの実施概要 4 その他
議 事	1 FD委員会規程改正(案)について 2 その他

## &lt;第5回&gt;

日 時	2019年10月9日(水)
場 所	(メール会議)
報告事項	1 第10回・第11回FDセミナー実施報告 2 第11回FDセミナーアンケート集計結果(第10回はアンケートを取らなかった。) 3 TP講演アンケート結果
議 事	特になし。

<第6回>

日 時	2020年1月15日(水)
場 所	(メール会議)
報告事項	1 過去5年間(2014年度~2018年度のFDセミナー一覧 2 その他
議 事	特になし。

<第7回>

日 時	2020年2月12日(水)
場 所	(メール会議)
報告事項	1 次年度開催FDセミナー 2 その他
議 事	特になし。

## 2019 年度 F D セミナー実施報告

## 第 1 回

演 題	2019 年度歯学系 CBT 問題公募要領と問題作成のポイント (チラシは p. 28)
日 時	2019 年 4 月 22 日(月) 17:00~18:00
講 師	前田博史先生(口治)(大阪歯科大学)/梅田誠先生(歯周)(大阪歯科大学)
出席者	160 名(中継なし)
内 容	2019 年度版 CBT 問題作成について、前田博史先生、梅田誠先生より、注意事項についてご説明頂いた。併せて各講座への問題作成依頼も行った。

## 第 2 回

演 題	新教育研究棟における兵庫医科大学の新たな教育の取組 (チラシは p. 29)
日 時	2019 年 5 月 20 日(月) 17:00~18:30
講 師	鈴木敬一郎先生(兵庫医科大学副学長(学部教育・内部質保証担当)/医療人育成研修センター長/主任教授(生化学)/)
出席者	173 名(天満橋:133 名 楠葉:40 名)
内 容	<p>兵庫医科大学について実践している具体例について、説明があった。</p> <p>受身では国家試験に通じない為、自発性を高める「しかけ」を多く行っている。具体的には以下の通り、述べられた。</p> <p>まず、チーム基盤型学習法通称 TBL を教育手法として積極的に取り入れているとのこと。クラスを 6 人前後の小人数グループに分け、課題を取り組ませることによって、学生の能動学習力、チームワークスキルを高めている。予習→準備確認試験→応用課題→TBL 試験の 4 手順を 3 日間掛けて行い、学生の学ぶ力を高めている。重要なポイントは各人予習を必ず実施させ、学生どうしで評価を行わせることである。評価の際は、談合、全員に同一点数を付けることを禁止している。出席については顔認証システムを使用し行っている。出席を厳格に管理することで、学生の体調不良・メンタル不調の早期発見や保護者への理解を得ることが出来ている。英語力の向上にも力を入れている。また、第 1 学年～第 4 学年の講義は全て収録されており、公欠等で講義に出席できなかった学生は講義後閲覧することが出来る。学生に不公平感を与えず、国家試験に向けて、能動的に取り組める環境づくりが今後必要であると締めくくられた。</p>

## 第 3 回

演 題	CBT 問題作成について (チラシは p. 30)
日 時	2019 年 5 月 24 日(金) 17:00~18:30
講 師	須田直人先生(明海大学教授)
出席者	138 名(中継なし)
内 容	CBT 問題作成のポイントについて、画像や「作問のねらい」の重要性について、実例を交え説明された。

## 第 4 回

演 題	CBT 問題作成について(ワークショップ) (一部の教員対象のため、チラシはなし。)
日 時	2019 年 5 月 25 日(土) 9:30~16:00
講 師	須田直人先生(明海大学教授)/森田学先生(岡山大学教授)
出席者	33 名(中継なし)
内 容	CBT 問題作成のポイントについて、実例を交え説明された。また、実際に作成された問題をもとにしてグループごとでブラッシュアップを行った。

第5回

演 題	「スマホ漬け」が招く若者の危機 (チラシは p. 31)
日 時	2019年5月27日(月) 17:00~18:30
講 師	石川結貴先生(作家/ジャーナリスト)
出席者	168名(中継なし)
内 容	6年前に流行が爆発したスマホは今や生活必需品となり、利用時間が長くなっている。その理由として、利便性や変化した現代の人間関係、各社のビジネス戦略により「やめにくい仕組み」ができていることが大きい。そしてそこには様々な危険が潜んでいる。無料アプリには、「もったいない」という気持ちを利用し、やめにくくさせる。さらには学生が犯罪に巻き込まれることも少なくない。SNSに投稿する写真には個人について特定される危険性があり、それをきっかけとして炎上し、個人攻撃を受けるリスクも考えなければならない。その他、スマホの利用時間に応じて学力、特に読解力が低下しているとの指摘もある。これからのネット社会においては、利用する上での問題点や危険性を自分で考えたり判断できる力が重要だ。学生に教える側もそれらについて知っておく必要がある。「小学校からスマホ」世代がこれからの主流になる。この流れに対してどのように対応するかが今後問われる。

第6回

演 題	アセスメント・ポリシー作成の必要性、学修成果の測定を客観的に行うために (チラシは p. 32)
日 時	2019年6月14日(金) 17:00~18:30
講 師	田中正弘先生(筑波大学)
出席者	144名(中継なし)
内 容	これまで日本の大学について、成績評価が教員の裁量に委ねられていた為、評価に客観性がなく、不統一で曖昧であった。今後は成績評価を、誰が行っても同様の結果となるようシステム化する必要がある。その為にはガイドラインや点検(調査)機関を設定し、全教員(学生)へ周知、遵守する必要があると複数校の実例を交え、説明頂いた。

第7回 ※枚方学術プラットフォーム主催 共同FD・SD事業

演 題	職場が生きる、人が育つ学びの支援：経験学習の観点から (チラシは p. 33)
日 時	2019年7月5日(金) 15:00~16:30
講 師	松尾睦先生(北海道大学)
出席者	76名(中継なし)
内 容	仕事における成長の3つの源として、「仕事経験」「他者からの指導」「研修」がある。これらはおおよそ7:2:1の割合となる。この大きな源である経験から学びを得ることを経験学習と呼ぶ。そのプロセスを理論化したものがコルブの経験学習モデルである。ここでは経験を振り返ること(リフレクション)がポイントとなる。また、変革するためには新しいことを取り入れるだけでなく、既存のもの(仕事のやり方等)を捨てる学習も重要である(=アンラーニング)。人材育成やOJTにおいても経験学習は活用でき、「リフレクション」「エンジョイメント」「ストレッチ」を起点にして指導することが望ましい。日本人は失敗ばかりに目が行き、成功を振り返らないことが多いので、ポジティブにフィードバックすると良い。目標のストレッチに過不足になることも問題ある指導者の大きな特徴なので注意する必要がある。

第8回

演 題	学生教育指導や成績向上に向けて今どきの学生に接する際に心理学的に気を付けるべきことについて (チラシは p. 34)
日 時	2019年7月30日(火) 17:00~18:30
講 師	森岡正芳先生(立命館大学)
出席者	170名(中継なし)
内 容	<p>大学生は自己形成発展途上の存在である。適切に支えなければ、自己形成に不具合が生じ、自傷行為や引きこもりにつながりかねない。多様化する学生の問題に向きあうためには、職員、家族と連携して対応を行う必要がある。</p> <p>自己は、以下の3つの感覚によって、一貫性が成り立っている。『理解(予測)可能という感覚』『処理可能という感覚』『有意義であるという感覚』これらの感覚を意識し、ユーモアを交えながら、対応を行っていくことが必要であると説明頂いた。説明後は話し手1、聞き手1、聞き手2に担当を分けた、3人1組のグループを作り、各人の抱える問題について、事例を交えて話しあった。</p>

第9回

演 題	目標達成のためのメンタルトレーニング (チラシは p. 35)
日 時	2019年8月27日(火) 17:00~18:30
講 師	白石豊先生(朝日大学)
出席者	156名(中継なし)
内 容	<p>スポーツの試合や国家試験等のプレッシャーがかかるときに実力をフルに発揮するためには、集中力等メンタルにかかわる強さが重要である。その極限である「ゾーン」というものがある。この状態に入るためには、肉体や技術だけでなく、メンタルのトレーニングが欠かせない。自身のメンタルスキルをチェックするうえで、8つの項目についてセルフチェックをしていく。大抵1つや2つは低いものがあるので、それぞれに対応したプログラムを用いて克服していく。また、実際にリラックス、集中、イメージリハーサルを短時間でできる手法も参加者全員で実践した。密教の1つであるマンダラを用いたマンダラートという手法もあり、これは自分を知り、思考を広く深め、目標の実現のサポートとして使うことができる。新体操のトップ選手や、メジャーリーグの大谷翔平選手が高校生の頃に実際に使用して目標の達成に影響を与えており、非常に役に立つツールである。</p>

第10回 ※枚方学術プラットフォーム主催 共同FD・SD事業

演 題	データサイエンス教育について〈臨床歯科医学を例として〉 (チラシは p. 36)
日 時	2019年9月27日(金) 15:30~17:00
講 師	今井弘一先生(大阪歯科大学)
出席者	219名(中継なし)
内 容	<p>医療情報教育では教育目標の優先度が時代とともに大きく変遷している。現在の教育目標は、医療情報の倫理を十分理解でき、患者のセキュリティ情報の重要性を認識・尊重し、保護する必要性を理解できること。そして、他科との情報連携ができ、医療情報ネットワークの一員として歯科医が活躍できることが挙げられる。</p> <p>その目標を達成するためには、医療情報ネットワーク社会で患者プライバシーの重要性・危険性を認識させるとともに、それを保護できる知識と技術を会得させることが重要になる。</p>

第11回

演 題	教育の質向上につながるティーチング・ポートフォリオ (チラシは p. 37)
日 時	2019年9月30日(月) 17:00~18:30
講 師	北野健一先生(大阪府立大学工業高等専門学校)
出席者	160名(中継なし)
内 容	<p>昨今、優れた教育に対して評価をするという大学が増えているが、そもそも優れた教育とは何をもって言えるのか不明瞭である。そのため教育の評価は非常に難しい。シラバスや授業評価は教育活動の一部しか明らかにできないが、そのすべてを明らかにする上で役に立つのが「ティーチング・ポートフォリオ」である。これは自らの教育活動について振り返り、エビデンスによって裏付けをした厳選された記録である。構造としては、教育の責任、理念、方法、成果、今後の目標等であり、これを作成するプロセスそのものが自らの教育改善となる。作成には3日間かけてメンターともに行う。メンターは指導者ではなく伴走者のようなものであり、立場の上下は関係無いが、非常に重要である。最後にミニワークを行い、ティーチング・ポートフォリオを作成する前段階を体験した。</p>

第12回

演 題	認知症サポーターとしての活動
日 時	2020年3月24日(火) 17:00 予定
講 師	
出席者	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため延期
内 容	

FD・SD 合同

演 題	2020年 年頭所感 (チラシは p. 38)
日 時	2020年1月6日(月) 11:00
講 師	川添堯彬理事長・学長(大阪歯科大学)
出席者	
内 容	2020年 年頭所感

# FDセミナー

2019年度

歯学系 CBT (Computer Based Testing)

## 問題公募要領と問題作成のポイント



日時

2019年4月22日 月

17:00~18:30

学生は  
聴講厳禁!!  
(大学院生含む)



場所

創立100周年記念館4階 大講義室

### ①2019年度のCBT問題公募要領

本年度の公募要領の内容と各教室・  
講座への依頼、締切などの説明

### ②MCQ問題作成の要点

CBT全国説明会の内容の概略、特にCBT  
問題での連問(WQL)作成時の注意点を中心に  
説明

講師

前田 博史教授 梅田 誠教授

### 備 考

公務（講義・出張等）により出席不可能の際は、事前の出席確認メールに  
ございますGoogleフォームから欠席される理由も合わせてご回答ください。  
(欠席届等の用紙の提出は不要です。)

また、セミナーの撮影は禁止となっております。

主催:大阪歯科大学  
FD委員会

TEL : 072-864-3006 (内線: 2154)

MAIL: nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp





# 2019年度 FDセミナー 学生教育に関するFD

## 講師

兵庫医科大学  
鈴木 敬一郎 先生

## 日時

2019年5月20日(月)  
17:00~18:30(予定)

## 場所

創立100周年記念館  
4階 大講義室  
※楠葉学舎中継有り  
(5号館 3F 大会議室)

公務（講義・出張等）により出席不可能の際は、事前の出席確認メールに  
ございますGoogleフォームから  
欠席される理由も合わせてご回答ください。  
(欠席届等の用紙の提出は不要です。)  
また、セミナーの撮影は禁止となっております。

OSAKA  
DENTAL  
UNIVERSITY



主催:大阪歯科大学 FD委員会  
TEL : 072-864-3006(内線:2154)

MAIL: nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp

2019年度FDセミナー  
CBT問題作成について

講師

明海大学 須田 直人 教授

日時

2019年 5月24日(金)  
17:00~18:30(予定)

場所

創立100周年記念館 4F 大講義室

※楠葉中継はありません

第1回FDセミナー(4月22日)時に配付しました、  
CBT問題作成に関する資料等をお持ちいただきます  
ようお願いいたします。  
欠席された等で資料がお手元がない先生方には  
当日お渡しいたします。

公務(講義・出張等)により出席不可能の際は、事  
前の出席確認メールにございますGoogleフォーム  
から欠席される理由も合わせてご回答ください。  
(欠席届等の用紙の提出は不要です。)  
また、セミナーの撮影は禁止となっております。

主催:大阪歯科大学FD委員会

お問い合わせ

TEL :072-864-3006(内線:2154)  
MAIL: nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp

OSAKA  
DENTAL  
UNIVERSITY





# FDセミナー

(順延分)

## 「スマホ漬け」が招く若者の危機

講師

作家/ジャーナリスト

石川 結貴 先生

日時

2019年 5月27日(月) 17:00~18:30

会場

創立100周年記念館 4階 大講義室

楠葉中継はありません。

ぜひご出席  
ください!

備考

公務（講義・出張等）により出席不可能の際は、事前の出席確認メールにございますGoogleフォームから欠席される理由も合わせてご回答ください。

（欠席届等の用紙の提出は不要です。）

また、セミナーの撮影は禁止となっております。

主催

TEL 072-864-3006(内線2154)

OSAKA  
DENTAL  
UNIVERSITY



大阪歯科大学FD委員会

MAIL nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp

2019年度  
FDセミナー

アセスメント・ポリシー作成の必要性、  
学習効果の測定を客観的に行うために

**【講師】** ▶▶▶ 筑波大学 田中正弘先生

**【場所】** ▶▶▶ 創立100周年記念館  
4F 大講義室

※楠葉中継は中止になりました。

**【日時】** ▶▶▶ 2019年6月14日(金)  
17:00～18:30(予定)

- 公務（講義・出張等）により出席不可能の際は、事前の出席確認メールにございますGoogleフォームから欠席される理由も合わせてご回答ください。（欠席届等の用紙の提出は不要です。）
- セミナーの撮影は禁止となっております。

主催：大阪歯科大学FD委員会

TEL

072-864-3006(内線:2154)

MAIL

nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp

OSAKA  
DENTAL  
UNIVERSITY



## 枚方学術プラットフォーム主催 共同FD・SD事業

テーマ

### 職場が生きる、人が育つ学びの支援 ： 経験学習の観点から

人の成長の70%は経験によって決まるといわれています。講演では、経験学習の観点から「人は経験からどのように学ぶのか」「学生・後輩・部下をどのように育成すればよいのか」について解説します。

講師

まつお まこと  
松尾 睦 氏

・北海道大学大学院 経済学研究科 教授



2019年  
(令和元年)

7/5 (金)  
開催

時間 15時～16時30分

受付場所 第5大講義室前 / 受付開始 14時30分

場所 大阪歯科大学  
楠葉学舎 2号館 1階  
第5大講義室

※枚方学術プラットフォーム参加大学、枚方市役所の方々は  
守衛室を経由せず直接、受付へお越しください。

■主催：枚方学術プラットフォーム（大阪歯科大学・大阪工業大学・摂南大学・関西医科大学）

■後援：枚方市

お問い合わせ先

大阪歯科大学 人事課

☎ 072-864-3003

直通

2019年度

## FDセミナー

学生教育指導や成績向上に向けて学生に接する際に  
心理学的に気を付けるべきことについて（仮題）

- ★ 講師 → 立命館大学 人間科学研究科  
教授・副研究科長 森岡 正芳 先生
- ★ 場所 → 創立100周年記念館 4階 大講義室  
※中継はありません
- ★ 日時 → 2019年7月30日（火）  
17：00～18：30（予定）

- 公務（講義・出張等）により出席不可能の際は、事前の出席確認メールにございますGoogleフォームから欠席される理由も合わせてご回答ください。（欠席届等の用紙の提出は不要です。）
- セミナーの撮影は禁止となっております。

主催：大阪歯科大学FD委員会

MAIL：nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp

TEL：072-864-3006（内線：2154）

OSAKA  
DENTAL  
UNIVERSITY



# 2019年度 FDセミナー

## 目標達成のためのメンタルトレーニング

- 講師 朝日大学 保健医療学部健康スポーツ科学科  
教授 白石 豊 先生
- 場所 創立100周年記念館 4階 大講義室  
※楠葉中継はありません
- 日時 2019年8月27日(火)17:00~18:30(予定)

- 公務(講義・出張等)により出席不可能の際は、  
事前の出席確認メールにございますGoogleフォーム  
から欠席される理由も合わせてご回答ください。  
(欠席届等の用紙の提出は不要です。)
- セミナーの撮影は禁止となっております。

**主催：大阪歯科大学FD委員会**

TEL : 072-864-3006  
MAIL : nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp

OSAKA  
DENTAL  
UNIVERSITY



枚方学術プラットフォーム主催  
FD・SD合同事業

テーマ

# データサイエンス 教育について

## 〈臨床歯科医学を例として〉

講師



いまい こういち

今井 弘一

大阪歯科大学 副学長

2019年  
(令和元年)

9/27 (金)

開催

時間

15時30分~17時

受付場所/講義室入口

受付開始/15時

場所

大阪歯科大学  
楠葉学舎 2号館 1階  
第5大講義室

他大学の職員の方 歓迎

お問い合わせ先

大阪歯科大学 人事課

072-864-3003

直通

# 2019年度 FDセミナー

## 教育の質向上につながる ティーチング・ポートフォリオ

2019.9.30 mon

in

創立100周年記念館 4階 大講義室(中継無し)

17:00 ▶ 18:30(予定)

講師 ▶ 大阪府立大学 工業高等専門学校  
総合工学システム学科 教授 北野健一 先生

- 公務(講義・出張等)により出席不可能の際は、事前の出席確認メールにございますGoogleフォームから欠席される理由も合わせてご回答ください。(欠席届等の用紙の提出は不要です。)
- セミナーの撮影は禁止となっております。

主催:大阪歯科大学FD委員会

TEL

072-864-3006(内線:2154)

MAIL

nakagawa-r@cc.osaka-dent.ac.jp

OSAKA  
DENTAL  
UNIVERSITY



2019年12月3日

## 回 覧

教職員各位

### 全学教職員忘年慰労会・新年互礼会について

標記のこと、下記のとおり開催することになりましたのでご出席ください。  
なお、勤務取扱いについては、下記のとおりといたします。

#### 記

#### 1. 全学教職員忘年慰労会

- ◆ 日時 2019年12月27日（金）午後3時より
- ◆ 場所 天満橋附属病院14階 レストラン プラザ・フォーティーン

教職員の勤務取扱いは原則として、午前8時45分より正午までと  
します。

なお、日直等の関係上、部署によっては流動的とします。

#### 2. 新年互礼会

- ◆ 日時 2020年1月6日（月）午前11時より
- ◆ 場所 楠葉学舎 講堂
- ◆ 内容 理事長・学長の年頭所感（FD・SD研修会）

当日の勤務については、新年互礼会に間に合うように出勤し、出勤・  
退勤時には必ず楠葉学舎に設置のカードリーダーに登録してください。

なお、臨床研修歯科医、病院医員、契約職員の1月6日の勤務は免除  
となります。

新年互礼会終了後、楠葉学舎学内食堂にて、お飲み物と軽食をご用意  
しておりますのでご利用ください。

平成 28 年 7 月 28 日 理事会決定

## 大阪歯科大学 SD 実施方針

本学は、建学の精神「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもつて、社会に対する奉仕的人生観を体得して、『博愛』と『公益』に努める。」に従って、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、及び病院理念を定め、大学運営を行っている。これら理念を実現するとともに、構成員である職員一人一人を優れた人材に育成するための SD 実施方針を次のように定める。

## 1 実施方針

次表の区分に従い、毎年度計画的に実施する。

	1 新任者	2 部課員	3 管理職	備 考
階層別研修	(1) 新任者研修	(2) 中堅職員研修	(3) 管理者研修	研修効果を上げるため、大学団体が実施する研修に派遣し実施 (1) 私立大学協会関西支部 (2) 大阪府私立大学連絡会 (3) 私立大学協会
目的別研修	(4) 全体研修 (5) 業務研修 (6) FD研修 (7) 派遣研修			(4)(5) 毎年度計画を立て、学内で実施 (6) 学内の FD 研修で①SD 研修として指定するもの、②業務上参考となるもの、を受講 (7) 職務関連、実務習得のため、学外へ派遣
OJT	(8) OJT 研修			(8) 上司や先輩から業務遂行を通じて、職務上のトレーニング教育を受ける
職場外研修	(9) 外部団体研修			(9) 日本私立歯科大学協会等の実施する研修へ派遣
	(10) 自己啓発研修			大学院通学、語学研修等

## 2 実施計画の策定及び本方針の見直し

事務管理職会議で立案し、常務理事会で決定する。

## 2019年度 SDセミナー実施報告

## 第1回 ※枚方学術プラットフォーム主催 共同FD・SD事業

演題	職場が生きる, 人が育つ学びの支援: 経験学習の観点から (チラシは p. 41)
日時	2019年7月5日(金) 15:00~16:30
講師	松尾睦先生(北海道大学)
出席者	76名(中継なし)
内容	<p>仕事における成長の3つの源として、「仕事経験」「他者からの指導」「研修」がある。これらはおおよそ7:2:1の割合となる。この大きな源である経験から学びを得ることを経験学習と呼ぶ。そのプロセスを理論化したものがコルブの経験学習モデルである。ここでは経験を振り返ること(リフレクション)がポイントとなる。また、変革するためには新しいことを取り入れるだけではなく、既存のもの(仕事のやり方等)を捨てる学習も重要である(=アンラーニング)。人材育成やOJTにおいても経験学習は活用でき、「リフレクション」「エンジョイメント」「ストレッチ」を起点にして指導することが望ましい。日本人は失敗ばかりに目が行き、成功を振り返らないことが多いので、ポジティブにフィードバックすると良い。目標のストレッチに過不足になることも問題ある指導者の大きな特徴なので注意する必要がある。</p>

## 第2回 ※枚方学術プラットフォーム主催 SD事業

演題	大学を取り巻く華僑の変化と大学改革 (チラシは p. 42)
日時	2019年9月20日(金) 15:30~17:00
講師	木村克紀先生(株式会社エデュースキャリアデザイン代表取締役)
出席者	240名(中継なし)
内容	近年の学校を取り巻く環境, ミッションツリーマネジメントについて講演があった。

## 第3回 ※枚方学術プラットフォーム主催 共同FD・SD事業

演題	データサイエンス教育について〈臨床歯科医学を例として〉 (チラシは p. 43)
日時	2019年9月27日(金) 15:30~17:00
講師	今井弘一先生(大阪歯科大学)
出席者	219名(中継なし)
内容	<p>医療情報教育では教育目標の優先度が時代とともに大きく変遷している。現在の教育目標は、医療情報の倫理を十分理解でき、患者のセキュリティ情報の重要性を認識・尊重し、保護する必要性を理解できること。そして、他科との情報連携ができ、医療情報ネットワークの一員として歯科医が活躍できることが挙げられる。</p> <p>その目標を達成するためには、医療情報ネットワーク社会で患者プライバシーの重要性・危険性を認識させるとともに、それを保護できる知識と技術を会得させることが重要になる。</p>

## FD・SD合同

演題	2020年 年頭所感 (チラシは p. 44)
日時	2020年1月6日(月) 11:00
講師	川添堯彬理事長・学長(大阪歯科大学)
出席者	
内容	2020年 年頭所感

## 枚方学術プラットフォーム主催 共同FD・SD事業

テーマ

### 職場が生きる、人が育つ学びの支援 ： 経験学習の観点から

人の成長の70%は経験によって決まるといわれています。講演では、経験学習の観点から「人は経験からどのように学ぶのか」「学生・後輩・部下をどのように育成すればよいのか」について解説します。

講師

まつお まこと  
松尾 睦氏

・北海道大学大学院 経済学研究院 教授



2019年  
(令和元年)

7/5 (金)  
開催

時間

15時～16時30分

受付場所 講堂入口／受付開始 14時30分

場所

大阪歯科大学  
楠葉学舎 2号館 1階  
第5大講義室

※枚方学術プラットフォーム参加大学、枚方市役所の方々は  
守衛室を経由せず直接、受付へお越しく下さい。

お問い合わせ先

大阪歯科大学 人事課

☎ 072-864-3003

直通

枚方学術プラットフォーム主催  
SD事業

テーマ

# 大学を取り巻く 環境の変化と大学改革

1. 近年の学校を取り巻く環境
2. ミッションツリーマネジメント

講師



きむら かつのり

## 木村 克紀氏

- ・株式会社エデュースキャリアデザイン 代表取締役
- ・株式会社エデュース 取締役
- ・学校人育成塾 代表

2019年  
(令和元年)

# 9/20 (金)

## 開催

時間

# 15時30分~17時

受付場所 / 講義室入口

受付開始 / 15時

場所

大阪歯科大学  
楠葉学舎 2号館 1階  
第5大講義室

他大学の職員の方 歓迎

※枚方学術プラットフォーム参加大学、枚方市役所の方々には守衛室を経由せず直接、受付へお越しください。

お問い合わせ先

大阪歯科大学 人事課

☎ 072-864-3003

直通

枚方学術プラットフォーム主催  
FD・SD合同事業

テーマ

# データサイエンス 教育について

〈臨床歯科医学を例として〉

講師



いまい こういち  
**今井 弘一**  
大阪歯科大学 副学長

2019年  
(令和元年)

**9/27** (金)

開催

時間

**15時30分~17時**

受付場所/講義室入口  
受付開始/15時

場所

大阪歯科大学  
楠葉学舎 2号館 1階  
第5大講義室

他大学の職員の方 歓迎

お問い合わせ先

大阪歯科大学 人事課

**072-864-3003**

直通

2019年12月3日

## 回 覧

教職員各位

### 全学教職員忘年慰労会・新年互礼会について

標記のこと、下記のとおり開催することになりましたのでご出席ください。  
なお、勤務取扱いについては、下記のとおりといたします。

#### 記

#### 1. 全学教職員忘年慰労会

- ◆ 日時 2019年12月27日（金）午後3時より
- ◆ 場所 天満橋附属病院14階 レストラン プラザ・フォーティーン

教職員の勤務取扱いは原則として、午前8時45分より正午までと  
します。

なお、日直等の関係上、部署によっては流動的とします。

#### 2. 新年互礼会

- ◆ 日時 2020年1月6日（月）午前11時より
- ◆ 場所 楠葉学舎 講堂
- ◆ 内容 理事長・学長の年頭所感（FD・SD研修会）

当日の勤務については、新年互礼会に間に合うように出勤し、出勤・  
退勤時には必ず楠葉学舎に設置のカードリーダーに登録してください。

なお、臨床研修歯科医、病院医員、契約職員の1月6日の勤務は免除  
となります。

新年互礼会終了後、楠葉学舎学内食堂にて、お飲み物と軽食をご用意  
しておりますのでご利用ください。